

消費者物価 2.8%上昇

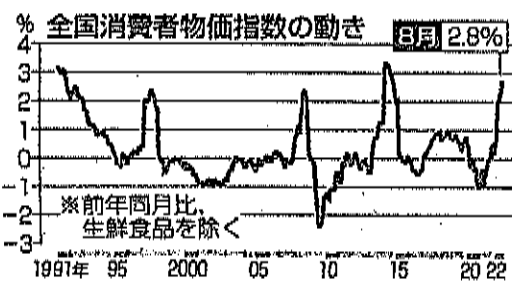
8月、31年ぶり伸び率

総務省が二十日発表した八月の全国消費者物価指数は、鮮食品を除くは、前年同月比2.8%上昇の二〇二〇年一〇〇、生五だった。伸び率は消費

九一年九月以来、約三十二年ぶりの大きくなった。円安進行やロシアのウクライナ侵襲などを通じて、エネルギー資源や原材料の輸入価格が高止まりしていることが響いた。関連面

二カ月連続で、伸び率は消費増税の影響も含めると、二〇一四年十月以来七年十カ月ぶりの大きさ。項目別では、食料は価格が天候に大きく左右される

%上がった。ルームエアコンや電気冷蔵庫などの家庭用耐久財は6.3%、タブレット端末を含む教養娯楽用耐久財も5.8%上がった。携帯電話通信料は14.4%下落したものの、昨春以降の格安料金プラン導入の影響が一巡し、下落幅は7月から7.3%縮小した。



引き続き全体を押し上げた。このうち電気代は21.5%、都市ガス代は28.4%、生鮮食品を除く調査対象の五百二十二品目のうち三百七十二品目が上昇。変化なしは四十、低下は百十だった。上昇品目は七月の三百七十六品目をやや下回った。生鮮食品とエネルギーを除く指数は1.6%上昇の二〇〇・九。生鮮食品とエネルギーを含む総合指数は3.0%上昇の二〇二・七だった。